

となりの取り組み

～北から南から～

「超高齢社会に対する

歯科医師会の取り組み」

岡山県歯科医師会公衆衛生部委員長

角谷 真一



一九九九年、Lancet に米山武義先生らの研究結果が掲載されて以降、「口腔ケア」は急速に認知度を上げ、誤嚥性肺炎の予防として病院、施設において重要なケアになってきています。また脳卒中の後遺症やパーキンソン病、ALS などの神経難病、認知症などによる摂食嚥下障害も増加傾向にあり、義歯や歯の処置とともに口腔リハビリの必要性も増してきて

います。さらに健康寿命を延ばすために、フレイルの予防が取り上げられるようになりました。フレイルの中でもオーラルフレイル（口腔の虚弱）は経口摂取機能の低下、会話機能の低下など栄養と社会生活の低下に直結するため、その機能低下を予防することは意義深く、口腔機能低下症に対応することも、歯科医師の新たな役割となつてきています。

【歯科往診サポートセンター】

このような主に高齢者の疾病やニーズに対応するため、岡山県歯科医師会では様々な取り組みを行っています。平成二十二年九月より岡山県の委託事業として、岡山県歯科医師会に「歯科往診サポートセンター」を開設し、病気等で寝たきりとなり通院が困難な方の歯科医療ニーズに対応しております。歯科往診は最近では実施する歯科診療所も増加傾向にあり県内でも約半数の診療所で実施しております。病気等で通院困難となった時には、これまでの「かかりつけ歯科医」が往診して処置を行うのが理想ですが、往診を実施していないとか、診療所からの距離の問題から、かかりつけ歯科医が往診に行けないケースもできます。歯科往診サポートセンターでは、歯科往診に関する様々な相談に対応し、往診が必要な方には近医で対応可能な歯科医療機関を紹介しております。歯科往診サポートセンターには、往診用のポータブルの歯を削る機械やレントゲンなども設置しておりますので、診療所での処置に近い対応が可能となっております。

歯科往診サポートセンターの受付は、月曜日から金曜日の午前十時から午後三時（但し祝日と年末年始を除く）となっております。

【摂食・嚥下リハビリテーション従事者研修会】

摂食嚥下障害への対応は多職種連携が必要となります。平成十五年、岡山大学病院に摂食嚥下障害の専門外来が開設されたのを機に、平成十七年『摂食・嚥下リハビリテーション従事者研修会 初級コース』を岡山大学、岡山県歯科衛生士会と共催で開催しました。以降毎年開催し二〇〇名近い受講生の皆様にご参加いただいています。受講者は医療職、介護職が大半を占めておりますが、支援学校の養護教諭の方々にも毎年受講していただいております。摂食嚥下リハビリテーションのニーズの広さを実感しています。今年度も四月～七月に全九回、医師、歯科医師、言語聴覚士、管理栄養士、歯科衛生士、作業療法士による各専門分野の講義と簡単な実習を実施しました。受講者は県内、近県はもとより、九州、四国、近畿等から通う方もおられ、日本国内の研修会では、おそらくトップクラスの内容だろうと評価をいただいております。尚、初級コース修了者を対象にして実技中心の上級コースも毎年開催し、こちらも好評を得ています。

【岡山大学歯学部在宅介護歯科医療教育】

さて団塊の世代が七十五歳以上となる二〇二五年以降は、医療や介護の需要がさらに増加することが予想されます。厚生労働省は高

健康長寿社会を担う歯科医学教育改革
—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制構築—

達成目標：口腔から全身健康に寄与できる歯科医師、及び、急性期、回復期、維持期、栄養サポートチーム(NST)、在宅介護現場をサポートできる歯科医師を育てる。また、適切な死生観に基づき、患者の病床、介護現場や終末期に寄り添えるプライマリケア歯科医を養成する。さらには、高齢者の「食」を基盤とした健康増進、介護予防、虚弱予防を目指した新しい歯学教育・研究を推進できる歯科医師を育てる。

課題

1. 歯科医師は患者の死や人生に寄り添うことに慣れていない。
2. 健康な患者に通常行われる歯科的診断と治療が要介護者にそのままではまらない。
3. 急性期病棟での多職種連携実習や在宅介護実習の教育の場が不足。
4. 教育機会が不均等で共通教育ツールが不足。
5. 周術期管理や要介護高齢者における歯科的介入を支える臨床エビデンスや基礎的知見が不足。

①講義シリーズ(連携大学共通、6単位)
○口腔と全身健康の関わり(2単位)、○口腔の生物学や各種外科的介入等における周術期管理(2単位)、○老人介護施設や在宅介護現場における歯学教育、死生学、多職種連携、地域包括ケア(2単位)

②シミュレーション-PBL演習
○全連携大学に完全高齢者を模したシミュレータを配置し、PBLやPACに力点を深掘り
○老人介護施設や在宅介護現場に人材育成促進の地域医療実習を利用したPBL演習を促進する

③高度医療支援・周術期口腔機能管理実習
○岡山大学病院 周術期管理センターにおける多職種連携実習(1単位)
○岡山大学病院 歯科高齢者ケア部合同実習(1単位)

医歯連携歯学教育コースワーク
(岡山大学、連携大学、協力施設)

解決策

1. 共同授業に死生学や地域包括ケアの概念の導入
2. 医学教育と歯科技術教育の融合、患者の権利低下にあわせた介入の重視
3. 岡山大学、連携大学、協力施設が協力して、急性期病棟における周術期管理や在宅介護臨床実習を提供
4. 岡山大学、連携大学、協力施設が協力して、全国統一電子授業ライブラリーを作成し、共有
5. 教育を支える臨床研究能力の開発、さらなる研究フィールドの確保

④在宅介護・訪問歯科診療参加型学外臨床実習
○岡山大学の歯科歯科口腔医師・保健師実習、○日本大学の歯科診療(歯学外実習)、○東京大学高齢社会総合研究機構、増プロジェクト医療フェロルド、○岡山大学の老人介護施設や在宅訪問歯科診療参加型臨床実習(1単位)等、連携施設と連携
実習(表)：臨床実習、歯学実習、歯科診療実習
実習(裏)：歯学実習、歯科診療実習
実習(表裏)：歯学実習、歯科診療実習

⑤高齢者の歯学研究フェロルド
○東京大学の歯学研究フェロルド、○大阪大学や東京歯科大学の歯科センターのBONRG研究フェロルド等に歯科として積極的に参加し、高齢者世帯における多職種連携実習を企画、健康長寿社会を担う医科歯科連携教育に貢献する

活用した講義の共有(eラーニング)、各担当校間の教員および学生の相互交流、主幹校(岡山大学)による全国規模のシンポジウム開催、海外専門家の招聘講演

高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援の目的のもとで、「地域包括ケアシステム」構築を推進しています。健康な方から要介護の方まで、経口摂取によって栄養摂取ができるかどうかは最も重要な要素の一つであり、経口摂取を

維持するために、歯や義歯の処置、口腔ケアや嚥下リハビリなど歯科の果たす役割は、大きいことが予想されます。現在歯科医師過剰と言われていますが、岡山県内でも在宅療養支援歯科診療所の届け出をしている診療所は全体の六分の一程度です。在宅歯科医療や医療連携の歯科需要には十分応えられていない状況ですので、増加していくことが予想される在宅歯科医療への対応は喫緊の課題ととらえています。

在宅歯科医療に関して、これまでの歯学教育では教育の場が不足しているということが課題として挙げられており、岡山大学歯学部では、平成二十六年年度に選定された文科省選定事業課題解決型高度医療人材養成プログラムが、全国十一の国立と私立大学と連携し、東京大学や国立長寿医療研究センター等四つの施設のご協力をいただき、超高齢社会において、健康長寿に寄与できる人材育成を推進しています。本事業の一環として、岡山県歯科医師会の会員を臨床講師と任命し、在宅・訪問歯科診療実習を開始しました。岡山大学歯学部の在宅介護歯科医療教育は、他大学からも注目を集めているプログラムで、なかでも学内でのシミュレーション教育と地域の歯科医療機関と連携した訪問歯科診療実習は他大学にはない取り組みです。

平成二十八年度の実習実績は、五十五名の学生が二七二施設を訪問し延べ七六八症例の経験をしました。学生自ら処置をした症例が十六%、介助の症例が二十四%、見学のみが

六十%でした。実習の処置内容の大半は口腔ケアと義歯関係でした。全実習終了後、学生、大学教官、臨床実習担当医が出席して歯科訪問診療教育シンポジウムを開催し、実習の評価を行っています。平成二十八年度の課題として、一、歯学部学生に対して在宅・訪問歯科診療に関する知識の強化を図るとともに、在宅医療に関わる医療人としての態度・倫理観をしっかりとたせていく必要がある。二、実際の訪問歯科診療での処置内容としては口



訪問歯科診療実習



シミュレーション実習

腔ケアおよび義歯の調整が多いため、コミュニケーション実習の内容を改善していく必要がある、といったものが挙げられました。二に関しては今年度より事前に大学での実習内容を変更することにより、より実践に近い歯科往診実習が実施されそうです。

三年前より始められた訪問歯科診療実習は年々改善されてきています。在宅・訪問歯科診療実習をきっかけとして、地域医療の必要性について学生自身が認識し、今後の超高齢社会において地域で活躍できる人材に育っていくことを期待しています。

第二十四回岡山プライマリ・ケア学会

総会・学術大会

暮らしを拓く新たな地域文化の創造

— 新しい医療福祉文化を目指して —

平成二十九年三月二十日（月・祝）

岡山県医師会館四階 第一・二会議室

研究発表トピックス①

「医療・介護・福祉写真展

〜思いを伝えるために〜」

真庭市地域ケア会議 作本 修一

最近になり医療、介護、福祉の職場における人員不足の問題はマスコミに大きく取り上げられています。例えば介護福祉士養成の学校では定員割れのところが増えていくとか、受験資格条件が重荷となり資格取得の意願が半減しているとの報道が見られます。

またケアマネでも更新手続きのために本来の業務以外での負担が次第に増えている現状があります。

さらに職場において、労働条件が苛酷なために腰痛、過労等で退職する職員も多くなるそうです。そうなるに残った職員の労働負担が増えるため転倒、骨折、誤嚥性肺炎等の危険が増すこととなります。

そこで安全を優先して拘束という手段をとれば虐待と非難されてしまうとジレンマも経験している所です。

またある施設では職員数減少のため十分に稼働できていないところもあると聞いています。その上、我々のような中山間部では雪も降るわけで、職員はガードレールもない山道を利用者のために送迎、訪問などを崖への転落という危険を感じながら業務をしています。

また給料も他の職種に比較して少ないため結婚等を考えて離職し、他の職種に転職する若者も多いことも報道されています。このようにマイナスのイメージばかりが広がり、社会的評価も低いためこれらの職種を選択する人が少なくなり、いくら募集をかけても応募が全くないわけです。

しかし職員の皆さんはどんなにしんどくても家族の方や利用者からの感謝の言葉を聞くことや、関係した方々の日常生活、活動の改善を実感することで、役にたっている喜びを感じ、誇りと自信を持って仕事をされているのが実情でしょう。

そこで、我々は少しでも職場の雰囲気を変

利用者、職員の笑顔



社会福祉協議会ボランティア研修



真庭市成人式の写真展



えるためにはどうすればよいかを考え、昨年3月に「呼びかけ人の会」を立ち上げ相談の結果、笑顔の写真展ならできるのではないかと考えました。そして各職種、施設に参加を呼び掛けて2カ月おきに各振興局、病院のフロアーを使用させていただき写真展を始めました。勝山では「成人式の日」に行い若い人にアピールしました。

また社会福祉協議会の協力で夏のボランティア事業でもコーナーを作っていたいただき介護職の方が参加の生徒さんに自分達の思いを伝えました。

さらにこの活動が新聞、テレビに報道されたことで商工会青年部から「勤労感謝の日」



医療、介護の魅力知って
久世公民館で写真展
仕事の楽しさ伝える50点

真庭市久世の久世公民館で16日、医療、介護の魅力を伝える写真展が始まった。23日まで。

市内の30事業所が寄せられた写真展と利用者の笑顔の写真を取りハトリや食卓のサポートといった施設での生活をほめた。和やかな表情で笑顔を浮かべ、花を飾る代表を一家に紹介する特別展「キルト」も開催中。新居町中手掛り「ワークショップ」による「ワークショップ」

心を持つのも、午前9時～午後10時。目録は5月15日、市内の医療、介護関係者らに配布。18日休館。担当不足が深刻な医療や介護の現場に「目録」(厚紙)を

キルト作家による展示。18日、出品作家らによるワークショップが行われる。17日は午前10時から、出品作家の道正千恵さん、神谷日恵さんがトーク。午後1時半～5時半は、山辺千代子さんが講演を務めるワークショップがあり、ミニ体験講座も開催される。18日は午後1時半から、新居町中手掛り「ワークショップ」による「ワークショップ」

に行われるいろいろな仕事を小学生に紹介する「キッズマニワーク」へ参加してみても呼び掛けがあり皆で車椅子、マット、装具等を準備し小学生にいろいろな体験をしてみたいです。

そして各会場にはアンケート箱を用意してあったのですが、その中には市民の方から我々が勇気づけられるようなご意見があり、ちゃんと見ていただけたのだなあと感激したところです。

今後この活動をどのように展開するか、メンバーも増えたので皆でアイデアを出し合っ

体験学習

車椅子の経験



ストラックアウトの経験



◆研究発表トピックス②

「暮らしの中の食事支援」

岡山県栄養士会福祉事業部管理栄養士

元木 香緒里

私が所属している藤田荘は、『地域における福祉の発展と充実を図る』という社会福祉法人 翔洋会の理念に基づき、二十九名の入居者に対して日々支援を行っている地域密着型特別養護老人ホームです。

通常施設給食というと、厨房で画一的に調理されたものを食べて頂くことが基本となりますが、藤田荘では、『施設給食も暮らしの中の食事である事』を基本とし、個々の今までの習慣や得意な作業、今出来る事などから入居者自らが献立を考え、地元のスーパーへ一緒に買い出しに行き商品を選び支払いをし、藤田荘へ戻ると一緒に作って昼食として食べ、レシートの清算をするところまでを一連の活動と考え支援しています。入居者の状況や施設公用車の空き状況などから事務と相談して当日決行する事もあります。

取り組みのきっかけは、日本栄養士会の研修でICFシート及び二十四時間シートの作成を学んだ事でした。全人的な栄養ケアにおける視点及び施設のスケールメリットを最大限に生かした中での多職種連携の在り方を見直したことで、今まで経口維持、行事食の提供や食事作り等、施設内で完結していた栄養ケアから、施設内外の資源を活用し「高齢者自らが主体となれるような栄養ケア計画」へ

変わる事が出来ました。この事により入居者の生活に少しずつ地域での活動も加わり、楽しみながら主観的幸福感や満足度が向上、栄養状態の良好な維持に繋がりました。

管理栄養士は、栄養計画・予算・衛生管理・食材選び・献立・食べ方のアドバイス等が出来る職種です。その管理栄養士が買い物・外出支援を行う事は、楽しみにプラスして栄養改善も支援できるメリットがあります。加算などの報酬はありません。また、通常業務にプラスしての支援のため、業務量増加にも繋がっています。

私は、介護とは、『手間』を心を込めてする事だと考えています。この取り組みにより、高齢者を笑顔でいきいきとした表情での暮らしに近付ける事が出来るだけでなく、私自身が人生の先輩から教えられる事も多くありました。これからも管理栄養士として食事の栄養素・量だけを見るのではなく、楽しみ・味わいを含め、一人ひとりの高齢者の気持ちもアセスメント出来るよう、多職種と連携しながら努めていこうと思います。超高齢化社会でニーズが多様化する中、どこで暮らすかではなく、どのように暮らすかを考えた時、施設入居が『在宅生活をあきらめた結果ではない暮らしの場』となれるよう、食事から努めていきたいと考えています。



◆関連団体の紹介

岡山県言語聴覚士会の紹介

一般社団法人岡山県言語聴覚士会

副会長 中村 光

言語聴覚士は一九九七年に国家資格となり、一九九九年に第一回の国家試験が行われました。現在は全国に三万人弱の有資格者がいます。岡山県言語聴覚士会は全国でも早く二〇〇〇年に設立され、今年から一般社団法人に移行しています。会員数は約三〇〇名です。会員はそれぞれの職場で、小児や成人の言語・認知、摂食・嚥下、発声・発語、聴覚の問題に対するリハビリテーションを行っています。言語聴覚士会としては、会員の学術技能・資質の向上や言語聴覚士の地位向上に取り組むとともに、県民の保健・医療・福祉・教育の発展に寄与することを目的に活動しています。年に一回「岡山言語まつり」と称して、県内の言語聴覚障害当事者団体や地域の方々と交流したり、理学療法士会、作業療法士会とともに岡山県リハビリテーション専門職団体連絡会を結成して、介護予防を含めた地域リハビリテーションの推進にも取り組んでいます。

言語聴覚士は数が少ないこともあり、現在は多くの病院内で働いていますが、今後は病院外での活動の機会が増えていくと予想さ

れます。例えば、学校における発達障害やコミュニケーションに問題のある子どもへの対応、介護保険施設や在宅における維持期・生活期の高齢者への言語・認知、摂食・嚥下、聴覚の問題への対応などです。

大きなテーマの一つが認知症への言語聴覚療法の展開です。認知症の認知機能障害および非認知機能障害（BPSD）のいずれに対しても、評価と介入の鍵となるのはコミュニケーションだと考えられます。例えば、新オレンジプランでは難聴が認知症の発症または増悪を促進する危険因子だと明記されました。高齢者への聴覚の評価と、問題があった場合の適切な介入によって、認知症の予防または改善に結びつくものと考えられます。BPSDの改善にも、背景となる認知機能障害の把握や本人とのコミュニケーションが重要になります。もちろん、家族介護者に認知症者とのコミュニケーション方法を指導したり、言語聴覚士がもつ多様な代替コミュニケーション手段を紹介することで、家族の介護負担感を減らすことも期待できます。認知症者の意思決定の支援や権利擁護に関しても、言語聴覚士が貢献できることは大です。

是非さまざまな場面で言語聴覚士を活用いただきまますようお願い申し上げます。



◆研修会の予定

◎平成二十九年九月二十三日（土・祝）

十四時～十五時四十五分

岡山県医師会館 四階 四〇一会議室

認知症研修会

— 在宅で認知症を支える（八） —

演題

「BPSDの『かゝる』とその対応」

講師

（医）エスポール出雲クリニック 院長

高橋 幸男 先生

◆入会のご案内

★申込書は、HPからダウンロード出来ます。

<http://www.p-care-okayama.com/>

岡山プライマリ・ケア学会 入会申込書

岡山プライマリ・ケア学会
会長 沼崎 啓祐

日本プライマリ・ケア学会が平成21年に日本プライマリ・ケア連合学会として再出発したのを機に、日本プライマリ・ケア学会岡山支部は、岡山プライマリ・ケア学会として独立しました。基本的には、今までの20年の歴史を継ぎ、岡山の特色ともいえる多職種連携のもとに推進いたします。これらの活動には、岡山県医師会から多大のご協力を頂いています。

◎具体的な活動

1. 学術大会（平成27年度・第23回）
2. 多職種多団体との連携
3. 認知症を地域で支える方策と実践活動
4. 在宅療養に有効な連携パスポートの普及【連携シートむすびの和】
5. 医療福祉誌

詳細は、ホームページをご参照ください。「岡山プライマリ・ケア学会」で検索。



年会費：医師・歯科医師・薬剤師：5,000円
その他：2,000円

【申込日】 平成 年 月 日

氏名：	職種：
連絡先（勤務・自宅） 住所（〒）：	
所属（連絡先が職場の場合）：	電話番号：

申込先：岡山プライマリ・ケア学会 FAX：086-251-6622

◎どなたでも入会出来ます。 ◎入会は随時受け付けます。

編集後記

やぶ医者 の語源の一つが「養父（やぶ）市にいた名医」であることから始まった『やぶ医者大賞』に鏡野町国保上斎原歯科診療所の澤田弘一先生が選ばれました。「となりの取り組み」や岡山プライマリ・ケア学会でも発表されている澤田先生に大きな拍手を送らせていただきます。おめでとうございます。

編集委員

佐藤 涼介

菅崎 仁美

丸田 康代

岩瀬 あかね

編集・発行

岡山プライマリ・ケア学会 事務局

〒700-0024

岡山市北区駅元町 19-2

（岡山県医師会内）

TEL：086-250-5111

FAX：086-251-6622

Eメール：gakkai@p-care-okayama.com